

ふれあい情報

2018年 1月11日(木) 第272号

■発行 日本退職者連合
 ■発行人 菅井 義夫
 ■連絡先 〒101-0062
 東京都千代田区神田駿河台 3-2-11

<TEL> 03-5295-0507 <FAX> 03-5295-0541 <e-mail> ntr@sv.rengo-net.or.jp

暮らし応援は“会員の、会員による、会員のため”

労福協と取り組む

「かがわ高齢者家事サポート」

退職者連合は、高齢者世帯が安心・安全に暮らしのサポートが受けられるように政府に対して政策・制度を要求し、その実現を求めています。高齢者世帯の暮らしサポート事業をめぐるっては、昨今、民間業者の参入が相次いでいます。ところが高齢者を喰い物にする悪質業者も増えてきており、トラブルが社会問題化しています。こうした中で「会員の、会員による、会員のため」の暮らしのサポート活動に取り組んでいる地方退職者連合があります。香川県退職者連合の西丸健二事務局長から取り組み報告がありましたので、「紹介します」。

厳しさ増す、高齢者の日々の暮らし

電球の取り替えや乾電 よつとしたことは、元気な池の交換など高齢者の うちは苦にならなくても、日々の暮らしにとってち 歳を重ねて身体が動かな



▲お寺の庭木の剪定。実践講習するのは「高齢者家事サポート」の大谷克文副代長。



▲会員宅の庭木の剪定。写真は、高松市市役所退職者会の石原さん。

くなったら大変です。しかも「お一人様暮らし」の場合は、もつと深刻です。

会員数は329人

香川県退職者連合では、県労福協と連携してライフサポート活動の一端として「かがわ高齢者家事サポート」活動に取り組んでいます。

労福協の中での退職者組織を中心に会員を募っています。サポートする人も、される人もみんな香川退連の会員です。

入会費用は1000円 (2ページ表参照)。
 (内訳は年会費が300円と入会金700円)で サポートしてくれる
 会員に支払う費用は、1時間あたり700円と なっています。

現在の会員数は329人となっており、高松市と三木町で実施しています。また会員相互の研鑽と交流を兼ねて、「高松祭り」での花火大会後の

サポート活動の主な内容は、病院の送迎、庭木の手入れ、お買い物、洗濯・掃除、役所の手続き、パソコンの指導などです。

課題は

会員拡大

この取り組みもスタートから12年を迎えました。

これからも参加している香川退職者連合の会員のみなさんにとつて、より使い勝手のいいサポート活動にしていく努力をしています。

そのためにも、なんといいっても会員の拡大です。



▲サポートかがわの結成10周年祝賀会であいさつする香川退連の宮本正博会長。



▲数名で行なう会員宅の庭木の剪定。夏場は、厳しい作業となる。

暮らしのサポートの内容

①	掃除・洗濯	屋内床、天井、ガラス、浴槽、照明器具、換気扇等の清掃、洗濯機でできる洗濯・干し、片付け
②	庭木の手入れ	雑木の剪定・枝打ち・刈込みなど。草取り、水やり、片付け
③	電器部品の交換	照明器具など簡単なもの。電球・管球の取替え、時計などの乾電池交換。
④	障子の張替え	張替え作業
⑤	買物の手伝い	自家用車を利用したスーパーへの同行。
⑥	役所への手続き	申請用紙などをもってくる。必要に応じた本人の送迎。
⑦	通院の送迎	自家用車で可能な範囲での送迎。

日弁連

「生活保護基準引き下げは許さない！ 12.19 緊急集会」

「誰もが安心して暮らせる社会にしよう」
(菅井事務局長)

当事者・関係者など160人が参加

生活保護受給額のうち食費や光熱費など生活費相当分について、3年で最大5%引き下げると厚労省が12月18日に発表したことに反対して受給者や弁護士、市民団体などが12月19日、14時から衆議院第1議員会館で緊急集会を開きました。主催は、日本弁護士連合会(日弁連)。退職者連合からも菅井義夫事務局長と野田那智子副事務局長が参加し、菅井事務局長が引き下げに反対する「怒りのあいさつ」をしました。

“厚労省は、当事者・生活保護基準部会の声を聴け！”とサブタイトルがついた「もうひとつの生活保護基準部会」緊急院内集会には、受給者団体や弁護士、当事者や関係者など緊急にも関わらず、約160人が参加しました。

集会では、基準見直しを検討した社会保障審議会生活保護基準部会報告の解説をはじめ政府方針についての厳しい指摘などがありました。また当事者や受給者団体などから、切実な訴えがありました。

退職者連合を代表して発言した菅井事務局長は「政府・与

党は国民の健康で文化的な最低限の生活を保障するための政策や手立てを考えるのではなく、国の予算配分に合わせた生活を押し付けている。これでは、生活保護を含めたわが国の社会保障制度は限りなく先細りし、高齢者・低所得者の生活は成り立たない」と指摘し、「誰もが安心して暮らせる社会にするために、生活保護基準の引き下げに断固

厚労省は、当事者・生活保護基準部会の声を聴け！

反対し、みなさんとともに闘う」との決意を述べました。



▲メッセージボードを掲げて引き下げに抗議する集会参加者のみなさん。前列左は菅井事務局長。(12月19日、衆議院第1議員会館)

ホームページは退職者連合で検索を

退職者連合

検索